

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所きらめき読谷		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・医療的ケアや重症心身障害児の送迎支援体制を職員同士で考え配慮し協力して実施している。	・保護者の介護負担軽減を意識してニーズに応じた利用調整と送迎支援の連絡方法および人員配置を確認している。	・特に医療的ケア児の送迎支援について車両と看護師配置上、可能な限り体制を整えているが次年度放課後の児童が増えるため、時間帯が重なる場合を考慮し事前調整に取り組みたい。
2	・各々のこどものニーズに応じた支援を職員で話し合いを見据えた支援を実施している。	・点字などの支援ニーズに対して、室内の複数個所に名称の案内シールを貼り、分かりやすくしている。 ・ポジショニングや口腔ケアを実施している。	・コミュニケーション絵カードやポジショニングクッションを作成し支援の多様性を図りたい。 ・個別支援を充実させるため、こどもからのニーズに応えられる工夫をしたい。
3	・図書館など公共施設が近隣にあり、敷地内に広場と自然も豊かな庭があり地域連携が図りやすい立地である。	・平日下校後の図書館利用や天気の良い日に散歩に出かけ、土曜日や祝日には庭で運動遊びおやつを食べるなど、リフレッシュになる活動を意識している。	・家族や保護者支援でのイベントおよび地域交流と連携を充実させたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・平日は特別支援学校から遠方にあるため、送迎に要する時間が長く、下校送迎時間帯の活動時間が短くなりやすい。 ・地域の学校含め下校時間が重なり、個別活動になりやすい。	・児童発達支援との多機能型で、幅広い年齢層と特性のこどもに集団活動を行っている。	・大き目の福祉車両を運転手と児童指導員を兼ねた職員確保および職場定着の取り組みが必要。 ・車両での移動時間も音楽や絵本などを活用して充実出来る環境づくりが必要。 ・未就学児童と就学児童にグループ分ける活動と自立支援の観点からこどもに役割を与える合同活動の工夫が必要。
2	・医療的ケアが実施可能な看護師のシフト配置にゆとりを持つことが必要課題。	・重症心身障害児の医療的ケアは個別に方法が異なり人材育成に時間を要する上、送迎車内でも観察と吸引ケアが行われるため、責任感と精神的負担が大きい。	・安全安心なケアを実施する上で緊急時対応マニュアル作成と保護者および職員間の連携を図る。 ・運転手は福祉車両での送迎時に後部座席での車酔いを可能な限り防ぐ慎重な運転技術を身に着ける。
3	・事業所周辺は草花や木々が多く、夏場は特に蚊などの虫が多くなりやすい。	・梅雨時期や雨の後に水はけが不十分で水溜まりがでやすいため、	・虫の駆除のみならず発生を抑えるため香りの強い在来種の野草やハーブなどをプランターで育て、水槽でメダカなどを飼育して、活動プログラムを兼ねた改善の取り組みを試みたい。